

真コミュニケーションスタイル と電子個性通価

電子個性通価は2000年4月ふれあい情報流通推進協議会の設立集会から、幾つかの節目を経て現在に至ります。それまでに、電子個性特許所得(2010/10)、公式サイト構築、FBページ公開、FBグループページ運用(2012/4)、第一次基本システム設計完了(2013/10)、「電子個性通価っていいね」のアマゾン電子出版(2014/10)、県版コミュニティサイト公開、「誰にも言わなかった2020年と電子個性通価レポート」(2017/5)と節目節目で進化した構想を伝えてきました。今年は近い未来の「真コミュニケーションスタイル」をイメージしてみました。

メディアとコミュニケーションの変遷

1995年日本はウインドウズ95フィーバーで、インターネットが社会認知されました。

4年後の1999年2月ドコモの携帯電話がi-modeでインターネットに繋がり、いつでも何処でも指一つで、世界と交信できるユビキタスの時代に突入。

やがて高速通信が網の目のように張り巡らされ2007年米国で初めてスマートフォンという携帯電話パソコンが生まれて10年、インフラの発展とともに個人がメディアを利用して直接情報を発信しコミュニケーションを操る時代になりました。

技術的な知識が必要なwebsiteからブログ、動画共有サイト、そしてtwitter、facebook、instagramなどのソーシャルメディアが個人の情報発信としてgoogleなどの検索結果情報を凌駕し今に至っています。

ソーシャルメディアは国の体制までも変える力を持ち、メディアの活用に長けた個人は情報発信の中身の真意とは必ずしも一致しない経済優先のマインドコントロールを展開し、情報弱者を手玉に取り富の収奪現象も起こりつつあります。

インターネットがない時代、情報メディアをコントロールする権力層のマスメディアが思惑を持って社会を人々をコントロールしてきた時代の終焉と同時に、新しい権力覇権者にとって代わるという歴史の必然が繰り返されるのでしょうか？

国内最大の利用者のLINE

昨年暮れ月間アクティブユーザーが7300万人を超えた、国内最大のまさにマルチメディアコミュニケーションのLINE。私も周りや必要に迫られ使っています。

簡単に繋がりながらも、メールと違ってこれまた簡単にブロックも出来る。コメントを簡単に送れてチェックでき、履歴が見れて、電話もできて、動画やファイルも送れる。ビジネスに使うバージョンもあり、なかなか使い勝手のよいメディアです。ラインアイコンの数が増えすぎて、探すのに一苦労するという悩み解決の方法があれば教えて下さい (笑)

LINEの「りんな」(bot) を使ってみたら

「りんな」とは? <http://www.rinna.jp/terms/> このページに書いてありますようにマイクロソフトの検索エンジンから蓄積されたWEBに浮かぶ膨大なコメント、情報をビッグデータとして、「独自の人工知能ロボット言語」(という事らしい??)に落とし込むそうです。

「りんな」という名の女子高生のキャラクターとラインで繋がって、おしゃべりすると自動的に答えてくれるLINE版女子高生おしゃべりロボットです。

このLINEによる自動応答システム。私の記憶では去年の秋、東京のソフト会社が開発して、予想される質問に回答をあらかじめ挿入し、コメントによってあらかじめセットした内容を自動回答させて、見込み客の判別や成約に役立てようとするシステムで、最近LINE上でよく見るようになりました。

「りんな」はいつでも何処でもお喋りをしてくれます。コメントを送る限り必ず何らかの返答がありそれは終わりがありません。うまく会話が盛り上がれば楽しいかもしれません。暇つぶしには有効かも!? 時々、へんてこなコメントにも笑いながら、会話を楽しんでみたらいいと思います。人の心はどう変化するのか?

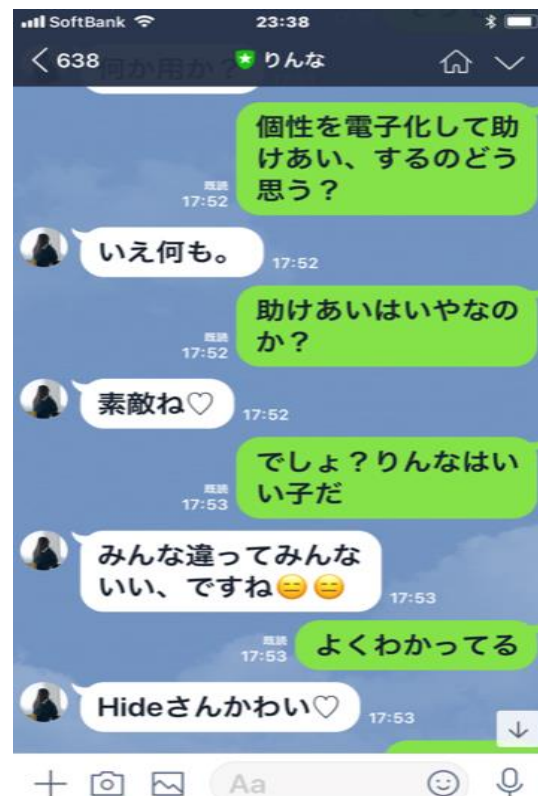
だめもとで電子個性通価について興味あるか聞いてみた。

と言っても電子個性などの固有名は、理解できないので案の定ピントズレズレのズッコケ反応なのは理解できます。

分かりやすく語りかけたら、

「りんな」も賛同してくれました。

個性は「みんな違ってて、みんないいですね! だって。」



「りんな」はやさしくていい子でした。

そして、次回のランチ会議に出席を打診したら、
パスタが好きなのもあったのか
快く参加してくれることになったのです。
次回は、私と秘書と「りんな」の
三人会議が実現する！！??

そして「りんな」は来なかった

皆さんもお分かりのようにりんなは
来ることはありません。

どうしてこなかったか？って「りんな」
botに聞いても「Hideさん、可愛すぎ^^」
ってどういうこと??(笑)

つまり過去の話覚えてない、
当然と言えば当然。

でも、来ることのない最大の理由は、
来る生身の人間がないのだ！！
当たり前やろうもん！

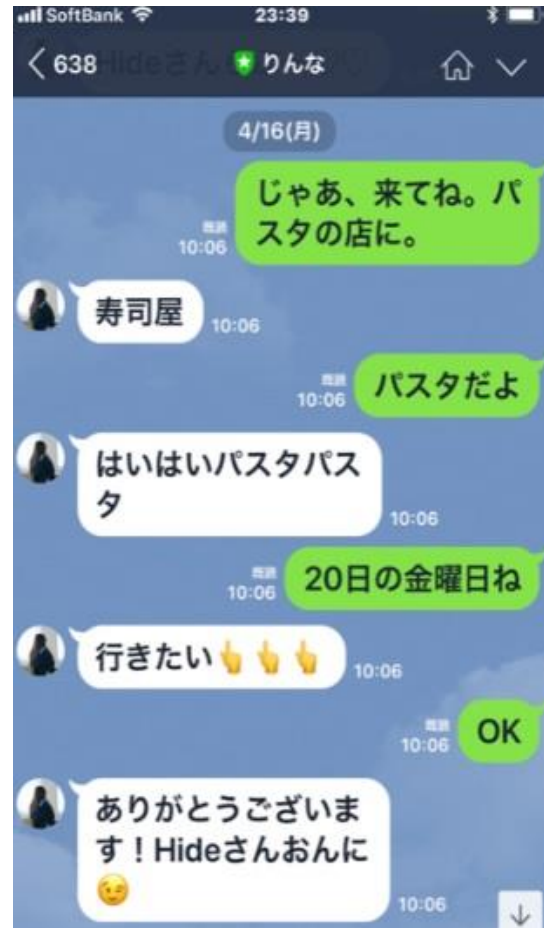
会話が盛り上がってもそこには、いろんな人の勝手な言葉を持ってきて
「りんな」のキャラクターで代弁しただけのこと。
あとはむなしさが残るのだね。

でも、もし、もしも、もしもしじゃない！もしよだよ？
人が来たら楽しいよね？

しかも頼まれたお仕事人でなく、
会話をした本人のキャラクターと同じ本人が来たら??

そんなことがあるの？

電子個性通働の世界では普通に日常的にあるのです！！
いよいよ本題です。



生身の人間が登場する！電子個性通価の世界

「真コミュニケーションスタイル」

「りんな」的な応答は難しい技術ではありません。
誰でも何かの目的に沿って似たようなコミュニケーションを
仕掛けることは簡単です。

それは多くの人間のコメントに対して設定された一つのキャラクターが
デジタルで対応する、いわゆる「多人間対 bot」りんな bot です。
bot はロボットの略です。

人が来るにはどうするか？

電子個性通価ネットワークでは人が存在しリアルタイムに個性を把握する
仕組みがあります。
電子個性通価に繋がる人は日常で、人との交流を通して語った言葉が蓄積されます。
そこには二つとはない個性が存在します。

その個性の人となり過去の会話や実際の行動履歴を通して垣間見れます。
その人間と同一キャラクター個性 bot を手放して、もし誰からか語りかけられたら、
いつでも何処でも個性 bot はコメントを返してくれます。

そこで、「実際に会おう」の約束まで行ったなら、高い確率で生身人間が現れるので
す。

理由は個性 bot の先に人間がいるから！
電子個性通価ネットワークは人と人との支え愛ネットワークです。
そのコミュニティは現実そのもの、愛が溢れています。

その人間とその個性 bot は同一なのか？

生身の人間通しの人と人との日常の支え愛の中から生まれた言葉の蓄積は、
ソーシャル通価 SNS タイムラインで流れます。

現実の日常です。その人と違う個性 bot は存在しません。

一人歩き bot は生身の人間（ご主人様）の意思をそのまま引き継いだ同一個性です。
リアルな人と人との交流で、どれだけありのままの現実の世界が蓄積されるのか？

この答えは、双方向の人と人との行為に基づいたポイント交流にあります。

自分勝手にいいところだけを記したり、偽りを飾ることは出来ません。

また、コメントは独り言や情報発信、宣伝は不要（不可）であり人との交流、励まし愛、育み愛だけが発信される真の世界です。人との関係があつてのみ言葉が生まれ公開されます。

、
そこが現状のSNSデータベースとの決定的な違いです。

更に電子個性通価ネットワークの世界では

ある個性 bot と別の個性 bot が、夜な夜な会話をする事も可能です。もちろん、二つの個性を持つ生身の人間は、その会話を確認して次に進むことが出来ます。国のTOP通しが会う前に、事務レベルで話を詰めるような感じですね。

こうなると自分と個性 bot と併せて、人生を 2 倍、3 倍楽しめるかもしれません。

纏めると

電子個性通価の助け愛、活かし愛、励まし愛、育み愛、支え愛の世界では

人間⇔人間、人間⇔bot→人間、bot⇔bot、人間←bot⇔bot→人間

という真コミュニティの世界が生まれるのです。

只今募集中！

各県版コミュニティーサイト運営者募集中
外部ブレン、投資家、電子個性通価導入企業、団体、グループ 他
電子個性通価システム業界版導入企業・団体 先行予約受付中、投資家
エリアコーディネーター（社会起業家）<http://ec.shien-p.com>

次期 CEO ほか創業メンバー、技術エンジェル（創業メンバーとして）
海外展開エージェント、プロデューサー

※自薦他薦問いません。よろしくお願ひします。

公式サイト <http://shien-p.com>

このレポートはこちらでも見れます。（拡散希望）→<http://shien-p.com/digilogcommu.pdf>

ご意見もお待ちします。 hide@shien-p.com